



2021年 8月15日
第16号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

8月15日号

みなさんは、18年前を思い出せますか。また、18年後を想像できますか。18年と言う歳月は、赤ちゃんが高校を卒業する位。あるいは社会に出て責任ある位置、もしくは親となっている年月。起点とする日からは想像できない長さである。

8月15日、第二次世界大戦、日本が言う終戦の日である。終戦から76年。18+58=76、これが筆者の計算式。筆者が生まれた18年前、日本は焦土と化していた。玉音放送を聞いた人々が19年後に東海道新幹線が開通し、東京オリンピックが開催されるとは夢にも思われなかったであろう。そもそも想像する余裕、気力は無かったのではないかと思う。筆者自身、18年前に、自分の見ている地が焼野原であったことに想像が至らない。

筆者の父はシベリア抑留を経験している。迫りくるソビエト軍から逃げ、地下水の染み出る洞穴に隠れ、そこで終戦を迎えたそう。そしてあと数日戦争が続いていたなら助からなかったろうと言っていた。母は当時、空襲や疎開で苦労したそう。父も母も「苦労した」とは言っていたが、生々しい話はしなかった。もう聞くことはできないので、子供たちに伝えてあげることができなくなった。事実を伝えることができなかった。

戦後76年という長さは、ほぼ人生に匹敵する。その長き時を経ても、苦しんでいる方々がいる。例えば黒い雨訴訟。広島で原爆が投下された直後に放射性物質を含む雨、いわゆる「黒い雨」が降った。国は黒い雨の影響範囲を「健康診断特別区」として、被爆者に準じた援護を行うとした。しかし、健康診断特別区の外側でも健康被害を受けたとして住民などが被爆者と認めるよう求めた裁判で、7月14日に広島高等裁判所で原告の訴えを認める判決が出された。この2審判決に対して国は控訴せず、原告の勝利が確定した。実に、黒い雨の被害認定に76年かかったのである。

放射能の影響、10年前、東日本大震災により福島第1原発事故が発生して、放射能物質が放出された。当時、この未曾有の事故に、日本中が恐怖した。事故により故郷を離れることを余儀なくされた方々、人生が一変された方々が大勢いる。しかし、多くの人中で福島第1原発の事故は過去の事となっていないか。聞こえてくるのは復興事業に絡む利権だけである。

令和3年8月15日、76回目の終戦の日をむかえた。過去を過去の事ととどめず、教科書では学べない事柄に思いをめぐらせ、事実をより集め、仲間のため、人として歩もう。(Y・H)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。